

## 第3回甲賀市総合計画策定審議会 会議録

---

- 開催日時** 平成27年8月11日（火）18：30から21：10まで
- 開催場所** あいこうか市民ホール 展示室
- 出席委員** 新川会長、小坂副会長、大原委員、岡村委員、川端委員、武田委員、田中委員、谷井委員、谷口委員、中森委員、林委員、星野委員、丸山委員、松田委員、藪下委員  
以上15名
- アドバイザー** 滋賀県総務部市町振興課 三井課長補佐
- 欠席委員** 兼松委員、坊迫委員、松村委員
- 事務局** 野尻政策推進課長、出嶋課長補佐、北林係長、清水主査
- 会議次第**
1. 開会
  2. 協議事項
    - (1) 第2回総合計画審議会の結果について
    - (2) 多元・多層の市民参加について
    - (3) 人口ビジョン（甲賀市の人口目標）について
    - (4) 甲賀の國づくりプロジェクトの検討状況について
  3. その他
  4. 閉会
- 会議資料**
- 資料1. 第2回甲賀市総合計画審議会
- 資料2. 人口減少問題に係る地域との意見交換会【まとめ】
- 資料3. 将来人口におよぼす自然増減・社会増減の影響度の分析
- 資料4. 甲賀の國づくりプロジェクト会議

## 会議内容

### 1. 開会（政策推進課長）

あいさつ

新川会長：出席いただき感謝申し上げます。前回は市内の現地踏査を実施いただいた。これらの経験をもとに総合計画、総合戦略へ貴重なご意見をいただきたい。協議項目が多く長時間となるかもしれないが、自由闊達な意見交換をお願いしたい。

### 2. 第2回総合計画審議会の結果について

新川会長：事務局より、第2回甲賀市総合計画審議会の結果について説明を求めます。

事務局：資料1に基づき事務局より説明。

新川会長：委員の皆様のご意見をお伺いします。

菺下委員：太鼓おどりなどの伝統芸能は、担い手不足・若手不足になっている。水口高校には郷土芸能部があり、水口ばやしの保存会の面々が一生懸命高校生に教えている。県下で郷土芸能部があるのは水口高校だけである。市内に4つある高校で郷土芸能を継続させる仕組みを構築できれば、一つの課題解決になるのではないかと。

谷井委員：対外的な発信においては、映像で訴えかけるのが効果的だと思う。これからは海外への発信も視野に入れ、地域資源の映像を作ってはどうか。

大原委員：今の時代において祭りを継承していくのは、ものすごく大変なことであり、それを守り育てるにはエネルギーが必要である。これらを支えている住民組織への支援の拡充が必要だと思う。

岡村委員：甲賀市の祭りは農業を中心としたものが多い。中心部より離れた地域は過疎化が進んでいるので、特区を甲賀市のなかで制定し、若い世代が地域に根ざす対策が必要ではないか。税の軽減や新しい移住者に空き家を提供するなど、住みやすい環境を提供するための支援が必要ではないか。

中森委員：甲賀市は自然に非常に恵まれているので、これらをもっと活かした方がよい。地域資源をまとめた観光パンフレットの作成やロケ地の整備など行ってはどうか。また、観光客を呼び込むには、ツアー会社との連携も有効である。

林委員：甲賀市は合併して10年になるが、地域や組織間で連携ができていないのではないかと。今後は、様々なグループをつないでまとめていく必要がある。

谷口委員：飛騨に行くと食べ物が沢山あるが、甲賀市は食べ物とのつながりが少ないと感じる。オカムラ農産の生産物や、加工品を作って販売するなどPRが必要ではないか。

川端委員：私は三重県から移住した。甲賀市には空き家があるが、借りる方法が分からない人が多い。Iターンを希望する方を受け入れる体制を構築することが必要ではないか。

松田委員：私も松本から信楽に来た。信楽には移住者が多い。子育てを田舎でしたい人は多いと思うが、移住すると地域との関わりをどのようにすればよいのか分

らない。地域の中に入っていき方が分からないという事もよく聞く。空き家を借りることや、人と人とのつながりを生み出すことはとても難しいと感じている。市外から来た人と地元がつながる方法が必要ではないか。

中森委員：荒廃地の固定資産税や山林を保安林にするなど税の軽減が必要ではないか。また、農業振興地域の指定をはずして、都会から来た人に住んでいただけるような規制緩和をしないと人口は増えない。全国的にも目立つような税の減免などを講じる必要がある。

星野委員：甲賀市は空き家に対しての助成制度が経済対策の一つとして設けられているが、あまり知られていないのではないか。例えば、空き家に無償で住めるというインパクトのある施策があれば、全国の中でも甲賀市を選んでいただけるのではないか。また、観光業で食のブランドとしてもポテンシャルの高いものがある。ハードはしっかり揃っているが、ソフト面での発信力が不足していると感じる。

田中委員：地域と地域、イベントとイベントを無理やりつなげる必要はないのではないか。それぞれの地域の特性を活かして、今までどおり進めていくのもひとつの方法だと考える。ただし、お互いがどのような取り組みをしているという情報交換は当然必要である。現在では、あまり知られていないかもしれないが、「忍者鍋」や「忍者巻き」など地域の特産品を集めて、発信している所もある。また、忍者の衣装でいろいろな地域に行って動画を撮影し、情報発信するという動きも出てきた。PRや発信の部分で我々も一緒に考えていけたらよいのではないか。工業団地に関しては、甲賀市は宿泊施設が少ないとの課題も聞いている。実際にどこの地域の方が甲賀市の工業団地に来ているのか教えていただきたい。

事務局：市外から勤務されている方は非常に多い。県下でも有数の工業団地であり、相対的に多くの市外居住者が勤務しているのは当然であるが、市内に住んでもよいが住むところがないため、市外に家を購入した人も多いと推測している。甲賀市は、日野町や湖南市からアクセスしやすく市外に定住しても通勤に支障はないというのも要因である。これらを踏まえると、交通結節点である貴生川駅周辺等に住宅造成を誘導することも必要ではないか。市内工業団地への出張者については草津などで宿泊される方が多い。これらの分析などの数字については、次回以降に用意させていただく。

武田委員：市内には工業団地が多くあり、このエリアは求人についても恵まれている。2、3年前までは求人も少なかったが、今年度は高卒の求人が7月末の段階の速報値で2.5倍である。しかし、その半分以上が県外からの就職というのが現状である。工場は三交代勤務もあり、夜間に仕事をするのを若者が敬遠される傾向にあり、九州方面から人を採用しているのが実情である。また、最近増えているのが技能実習生だが、実習生は市外からの転入が多いが、住宅が少ないため定着の可能性が少ないようである。市内の工業団地へ勤務されている方は、甲賀市以外の草津から通勤されている方が多いのではない

か。地元に住むところがあり、働くところがあって、異性と付き合える機会が増えれば、地元に着定される方も増えてくるだろう。最近は多くの若者が大学に行くが、高校を出て就職するのは楽しいというPRや、女性が活躍できる職場づくりが必要ではないか。これらの支援を進めなければ、市外に人が出て行き、働く場所はあるけれど人口は減っていくのではないか。

丸山委員：外国人の雇用は進んでいるが、年度途中で「仕事はないからもう来なくてよい」という言葉を突きつけられたり、1年間は仕事があると思って来たのに10カ月ぐらいで仕事が打ち切られる場合がある。私は市外からUターンで帰ってきたが、周りの人たちからの風当たりが比較的厳しかったと記憶している。伝統行事も当番制だから、やって当たり前という考え方もあり、それに沿わないことがあれば、周りの人たちとなじめないこともある。「人づきあい」や「しきたり」に関しての解決策を見つけなければいけないと思う。

小坂副会長：甲賀市には資源が有り余るほどあり、自然や風土に包まれて生きている甲賀の人はものすごく恵まれていると思う。今回視察した、お祭り、焼き物、お餅、農業など、土の神や山の神、そういう神々に守られていることから「聖地の甲賀」として売り出してもよいのではないか。市外の人がどのように思っているのか、市外の人をどのように受け入れるかということも大切だが、まずは市内の人が自分の住んでいる地域をもっと知ることが重要である。今の時代は一人ひとりが豊かになっているが、逆に一人ひとりの暮らす力が弱くなっている。いろいろな意味で「依存型」になっている。地域に住んでいる人たちのパワーをもっと引き出し、掘り起こすことが大切である。田舎はすごく保守的で、他者を寄せつけないと言われるが、それとは逆に他者が地域に入る作法を身につけることも必要ではないか。私自身はこの地域をもっと知りたいと思った。

新川会長：ありがとうございました。それでは次の議題に入ります。

### 3. 多元・多層の市民参加について

新川会長：多元・多層の市民参加について事務局より説明願います。

事務局：資料2に基づき説明。

新川会長：委員の皆様のご意見をお伺いします。

藪下委員：27ページの市民まちづくりディスカッションをさらに充実させてほしい。NPOや任意団体、あるいは色々な意見をもっておられる人、そういう方々ができるだけ参画していただくことが大切である。無作為抽出という方法もよいのではないか。

中森委員：2ページ最下段の「高齢者が気軽に集える場所をつくる」については、高齢者が気軽に集える場所・施設はたくさんあるが有効に活用されていないことが問題なのではないか。甲賀市には公民館がたくさんあるが、規約などの縛りが強いので、もっと気楽に使えるようにしてはどうか。「気軽に使える場所をつくる」のではなく、「活用する」ことが重要である。5町が合併の前に施

設を建てて、行政財産のまま、あまり使っていないものがどれだけあるのか、利用状況を調査する必要がある。

大原委員：市民の声をたくさん聞いて総合計画をつくるためには、アンケートやディスカッションはすごく大切な場だと思う。「将来について話し合しましょう」という感じで気楽に話せる場ができれば、もっと多くの意見を聞けるのではないかな。

谷井委員：市民意識調査アンケートは、無作為抽出で3,000人の方に出すということだが、どのくらい返ってきて、その数を甲賀市全体の数値とされるのか、教えていただきたい。

事務局：前回の市民意識調査では5割の方から返ってきている。3,000人の根拠は、10万人都市の場合は回答が1,000件ないと有効な回答と統計学上認められないことから、3,000件送付すれば確実に1,000件は返ってくると逆算して送付数を決めた。20～40歳の男女については、希望出生率を把握するために発送数を増やすこととする。

谷口委員：ワールド・カフェは無作為抽出ということだが、なかなか1人では話しにくいという雰囲気があると思う。2～3人のメンバーとか、どこかの会議で意見を聞く方が意見を出しやすいのではないかな。

新川会長：事務局は今のご意見を参考にして進めていただきたい。

川端委員：かふか21子ども未来会議OBの子どもたちとの意見交換会に参加させていただいた。特に高校生は、大人以上に自分たちが子どもを実際に育てて、将来どうしていくかということに対する思いをもっていることが分かった。近い将来、甲賀市に残っていただくためには、家族でまず話し合いをする機会とか、学校で話し合ってもらい、それらを地域の人と話すような意見交換の場が必要だと思った。

林委員：問23で「自治振興会が重点的に取り組んでほしい事業内容」について、子どもと一般成人と高齢者のことは書いているが、若者の交流については書かれていない。20歳～40歳の若者へのアンケートに、男女の出会いをつくるような事業や催し物を行った方がいいなど、若者に対する設問も設けていただきたい。

新川会長：総合計画を策定するにあたっての市民参加のあり方を、事務局でもしっかりと受け止めてご検討いただきたい。

中森委員：問20で「将来の甲賀市のすがた」を重要度で表しているが、「子ども・子育て」と「学校教育」については、意味あいを取り方によって変わるため、説明が必要だと思う。

丸山委員：アンケートは日本人に限らず、外国人の方からもアンケートを取る方法はないかな。

新川会長：外国籍の方々がどのように感じておられるのかも大事な情報である。アンケートだけが市民の意見を聞く方法ではないので、ヒアリング等の情報の集め方を考えていただきたい。

新川会長：他にご意見がないようですので、次の議題に進みます。

#### 4. 人口ビジョン（甲賀市の人口目標）について

新川会長：人口ビジョン（甲賀市の人口目標）について事務局より説明願います。

事務局：資料3に基づき説明。

新川会長：委員の皆様のご意見をお伺いします。

谷井委員：出産の数を増やすには、子育ての支援の充実が必要である。出産準備から15歳までの市の補助など、さまざまな支援を検討していただきたい。若者たちは、子どもの将来を考えて、安心して子育てができる環境と住む地域を選んでいる。

事務局：県内の就学前の通院・入院に関する支援を県が実施しているが、甲賀市はこの制度に上乘せして、中学校卒業までの入院はすべて無料としている。通院に関しては乳幼児を対象としており、小学校に入るまでは完全に無料である。中学校卒業までは完全無料化となっておらず、所得制限で対応してきたが、来年1月から小学校3年生まで無料化を拡充する。今後も甲賀市として子育て支援策を充実していきたい。

中森委員：不妊治療の助成制度を充実させるなどを考えないと、人口は増えないのではないか。レベルの高い産婦人科医師を甲賀病院に来ていただくなどの対策が必要である。

小坂副会長：鳥羽市では高齢者を集めて小学生を見守る活動があり、高齢者も活動が楽しめるとのことである。高齢者が集まる所となれば若者も集まるのではないか。誰もが最期はここで人生の幕を下ろしたい。こんなにいいところで最期自分が生きてよかったと納得できる人生を送りたい。甲賀市がそのような場所になって欲しい。

岡村委員：女性がパート等で働いても、働いて得た収入の殆どが保育料として流れていくようでは、「働きがい」がなくなるのではないか。「働きがい」を見つけるような施策と子育て施策について、どこまで市が助成できるかが、定住人口に大きく影響を与えるのではないか。子育てに関する分かりやすいパンフレットを作成するのもひとつの方法である。

新川会長：他にご意見がないようですので、次の議題に進みます。

#### 5. 甲賀の国づくりプロジェクトの検討状況について

新川会長：甲賀の国づくりプロジェクトの検討状況について事務局より説明願います。

事務局：資料4に基づき説明。

新川会長：委員の皆様のご意見をお伺いします。

中森委員：「健康づくりポイント制度を導入」とあるが、制度の統一が必要ではないか。あるいは、1年間に保険証を1回も使っていない人は優先して何十ポイントあげますよとか、80歳になったから免許証を返納し、バス定期券を交付することで事故が少なくなるとか、ポイントとスタンプを一本化して、高齢者

の健康寿命を延ばすように、高齢者が喜んでポイントを集めるという形にしてはどうか。

新川会長：他にご意見がないようですので、次の議題に進みます。

## 6. その他

新川会長：第4回については、9月14日、月曜日の19時からとします。内容は、人口ビジョン・総合戦略（骨子案）、社会潮流と地域資源の分析結果の意見交換です。

第5回は10月14日もしくは15日で考えているので多数決をとりたい。

採決の結果、第5回の審議会は、10月15日とします。

以上をもって議事は終了します。以後の進行を事務局にお返しする。

## 7. 閉会

事務局：長時間に渡りご協議ありがとうございました。閉会にあたり小坂副会長よりごあいさつをお願いします。

小坂副会長：長時間の議論お疲れさまでした。大変有意義な、前向きな議論ができたと思います。これから回を重ねていくことでどのように意見を集約していくか、楽しみにしています。また、次回もよろしくをお願いします。

事務局：以上をもって、第3回審議会を終了します。

以上